

かざぐるま通信

2026年1月
第27号

発行：社会福祉法人いこま福祉会
発行責任者：浅井伊知人

皆さんは、「無財の七施」という言葉を知っていますか？ これは『雑宝蔵経』というお経の中で説かれている言葉だそうです。そもそも「施」とは、いまそれを必要とする人のために心を込めて捧げること。決してそれは、金銭的なことを意味するわけではありません。捧げる財がなくとも私たちにできる施しがある。それが無財の七施です。以下に記します。

- 一 眼施(げんせ) 優しいまなざしで人に接する
- 二 和顔悦色施(わけんえつじきせ) にこやかな顔で接する
- 三 言辞施(ごんじせ) 優しい言葉で接する
- 四 身施(しんせ) 自分の身体でできることを奉仕する
- 五 心施(しんせ) 他のために心をくばる
- 六 床座施(しょうざせ) 席や場所を譲る
- 七 房舎施(ぼうしゃせ) 雨風がしのげるように自分の家を提供し、来訪者を温かく迎え入れる

Aさんが余命の宣告を受けたのは、昨年6月。

激しい痛みとその治まらない症状にイラつきと不安を感じるAさんに、スタッフはいつも温かい眼差しと笑顔と声掛けを、施してくれました。

訪問看護の看護師さんから足のマッサージの方法をホームのスタッフが懸命に学び、痛みがひどいときは夜中でもマッサージを施してくれました。『「時間がなくて、そんな余裕はない」と他の施設では聞き入れてもらえなかったが、ここのスタッフは熱心で優しい』とその看護師さんが感心されていました。

日に日に体調が悪くなっていくなか、自分たちが見ていない時の様子はどうなっているのか？ 関係するスタッフが集まってお互いの情報交換と共有を行いました。翌日、あるスタッフさんに会議のお礼を言うと、「皆の考えが知れてとてもよかったです」と涙ぐみながらお返事を頂きました。自分たちが進むべく方向を手探りながらAさんのために懸命に考えてくれていました。また或る時は、通所のスタッフがAさんに付き添って泊りをしていると、うとうととしている彼に対して、外国人のスタッフが「交代しましょうか？」と真夜中に優しく声掛けをしてくれたそうです。

痛みが激しく夜中に一睡もできずにいたAさん。それでも大好きな作業を一日たりとも休みませんでした。看護師がいつでも受け入れて医務室で休憩できたことも、彼の心の安定に重要な役割を果たしていたのだと思います。紙面には書き尽くせない程に、スタッフが頑張ってAさんを看取ってくれました。

文字通り「無財の七施」をAさんの支援を通して実践してくれたスタッフに改めて敬意を表すとともに、今後の法人運営においてもこの施しの気持ちを忘れずに努力して参ります。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。そして改めて、Aさんのご冥福をお祈り申し上げます。

最後にこの紙面をお借りして、私たちを支えてくれた訪問のドクターや看護師さん、ケアマネさん、その他の関係者の皆様にも心より感謝を申し上げます。

理事長 浅井 伊知人

▶ いこいこまつり

令和7年11月1日(土)に第11回いこいこまつりを開催しました。昨年度は残念ながら雨で中止ということもあり、直前まで雨の不安との戦いでしたが、当日は気持ちのいい晴天となり、無事まつりを開催することができました。

ステージでは、子どもたちの演技をはじめ、地域の出演者の方々が様々な舞台を披露してくださいました。さらに今回からPRタイムも設け、模擬店やワークショップで出店している方々がお店のPRをしたり、普段の活動をアピールする時間も設けました。

外国人の特定技能生はインドネシア料理のサテという料理を販売したり、ミャンマーの郷土料理のゼリーやフェイスペイントを行うワークショップでまつりを盛り上げてくれました。いこま国際交流協会さんからも海外のおもちゃ遊びワークショップを行ってくださり、多様な文化を感じることもできるまつりとなりました。

私たちいこま福祉会のメンバーも含め地域の方々が活躍できるいこいこまつりを来年以降も引き続き開催していきたいと思います。



▶ 森田記念福祉財団寄贈式

この度、森田記念福祉財団様より福祉車両をご寄贈いただきました。

令和7年9月4日(木)に納車され、ささやかではありますが寄贈式を執り行わせていただきました。感謝の気持ちを込めて、メンバーが心を込めて作った味噌、クッキー、タペストリー、切り絵カード、そして紙すきで作った和紙に書いた感謝状を贈らせていただきました。現在寄贈いただいた車両はメンバーの通院や送迎など日々の様々な活動で使用させていただいております。今後もメンバーのために大切に使用させていただきます。

森田記念福祉財団様は「奈良の取れたて野菜デリ」の取り組みの中でも当法人を含む県内の福祉施設で育てた野菜を買い取って下さり、奈良県のひとり親家庭に無償で提供されています。このように地域とのつながりを大切にしながら農福連携の面でもご尽力下さるなど日頃からの温かいご支援に深く感謝申し上げます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



かぎぐるま & かぎぐるま・え〜る

担当 中辻

新年あけましておめでとうございます。

令和7年度はかぎぐるまとかぎぐるまえ〜るにそれぞれ1名の方が新しく仲間に加わり、現在では新しい環境にも慣れて仕事もしっかり頑張られています。

今年度を振り返ってみると、加齢に伴って身体機能が低下してきた方もおられたため、昨年10月に作業療法士の先生に来ていただくことができました。

メンバーの活動の様子や身体状況を見ていただき、活動で取り組めそうなりハビリプログラムや介助方法についてアドバイスをいただきました。

また、月1回和田先生に來所していただき、静的弛緩誘導法を用いてメンバーさんの心身の緊張を緩和する具体的な方法を教えていただいています。

手足が動かしにくい、目が見えにくい、耳が聞こえにくいなど身体の変化は人それぞれです。その方達と関わる時には無理に「させる」のではなく活動内容や環境を工夫して無理なく自然な形で取り組んでもらえるようにすることを大切にしています。声かけについても安心感を持ってもらえるように声をかけたり、時には「やってみよう」と思ってもらえるような声かけを心がけています。身体状況によって動きがゆっくりな方もおられるので焦らず待つことも大切です。

今後もこれらのことを心がけながらメンバーさんと関わっていきたくと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひします。



きこり

担当 中

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新たなメンバーさんも加わることで新たな環境設備を整えつつ、従来からおられるメンバーさんに対する配慮及び高齢化に伴う身体機能低下にも意識していきながら取り組んで参りました。

年々余暇活動にも力を注ぐことができ今までにない企画にも挑戦することができた年になりました。移動手段にマイクロバスを使用して小旅行気分を味わっていただけたのもいい体験でした。

また昨年はさつまいもの収穫量が多く焼き芋パーティーの開催には他班も招待しメンバーさん同士の交流の場としていい体験ができました。離れた事業所ということもあり普段なかなか会えないメンバーさんとの再会にも微笑ましい光景を目にすることができました。何よりもメンバーさん同士が楽しそうにされている様子が見られ職員も嬉しい気持ちになります。引き続き今年も充実した余暇を企画していきたいと思ひます。

竹炭関連では、昨年は竹炭窯が経年劣化により約5年間の歳月に幕を下ろし新しいドラム缶の入れ替え工事を行いました。猛暑の課題も重なり、約6か月間の作業停止期間を置きましたが、何とか年内に完成し12月に炭焼きを実施することができました。ゆうほ〜からの納品依頼も定期的にいただき竹炭をお求め下さるリピーター様の為にも商品を欠かすことのないようきこり事業所という特別な場所で唯一無二の活動をメンバーさんと共に引き続き行っていきたくと思ひます。



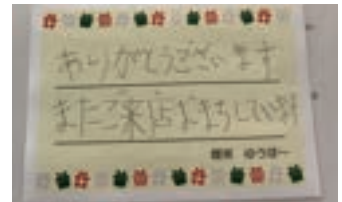
工房結 & ゆうほ~

担当 大谷

新年あけましておめでとうございます。本年も工房結・喫茶ゆうほ~をよろしくお願ひ致します。

令和7年度の活動を振り返ると、12月に喫茶ゆうほ~で「いこまレストラン」というイベントを開催することがありました。このイベントは、生駒産の野菜を使った食事を市民モニターさんが試食し、感想を言い合ったり、ワークショップでテーマトークをするといった生駒市農林課の企画です。今回声をかけていただき、喫茶ゆうほ~のシェフが生駒の農家さんのお野菜を使って腕を振るった料理を提供しました。野菜を提供した農家さんと料理を作る調理人と市民の方が顔を合わせて食事を共にすることで、野菜の作り手にも料理の作り手にも直接「おいしかった」という声が届く素敵な企画でした。メンバーさんも一生懸命接客のお仕事に励んでくれて、参加された市民モニターさんから喫茶ゆうほ~にまた来店したいというお声をたくさんいただくことができました。

今年もそんな顔の見える繋がりを大事にしていきたいと思ひます。



ひより

担当 阿曾

新年あけましておめでとうございます。

令和7年度は新たなメンバーさん1名が加わり、より一層にぎやかで活気のある雰囲気となりました。さて、昨年は加工トマトやさつまいもが豊作となり、加工品も製造量を増やして販路を広げながら売り上げを大きく伸ばすことができました。ひよりカフェもご家族方や常連のお客様が足繁く通って下さるとともにSNS等の広報を通じてご新規の獲得にもつながっています。

一方で昨年は近隣で熊の目撃情報やファームに例年よりも多くヘビが発見されるなど、害獣によるリスクも高まっています。風のファームでメンバーさんが安全に活動できるよう害獣対策を含めてリスクの洗い出しやマニュアルの整備、訓練等を進めているところです。

また、メンバーさんの高齢化に伴う機能低下への対策について法人全体で危機意識を持っており、農業チームとしてメンバーさんの将来を見据えて知識を深め、身体のことを考えた実践をしていきたいと思ひます。



新年のご挨拶

担当 伊藤

令和8年度にはグループホームの転居、令和10年度には新規グループホームの開所を予定しています。これまでメンバーさんと関わる中で学んだことや、ご家族の皆様から伺った想い・情報、見学や研修で学んだことを生かし、関係者の皆様への感謝を忘れず、協力しながら事業を進めていきたいと考えています。

●余暇支援について

当たり前ではあるのですが、令和7年度は、メンバーさんの余暇（旅行・外出・外食など）を支援者が一方的に決めるのではなく、メンバーさんご本人の「やりたいこと」「食べたい物」「行きたい場所」「乗りたい物」など、それぞれの希望を大切にしながら考えました。

メンバーさんと一緒に一から計画することもあれば、言葉で伝えることが難しい方については、日々の関わりの中で見られる「好きなもの」や「テレビなどで興味を示している場所」を行き先にすることもありました。その結果、多くの方に満足していただくことができました。皆様、費用はかなりかかられていましたが...。ご家族の皆様にはご理解をいただき、ありがとうございました。

また、おやつ作りなど休日の短い時間の余暇イベントについても、途中退席ができるなど自由な環境の中で参加していただき、メンバーさんの反応を見ながら余暇の幅を広げることができました。外出時のスケジュールを丁寧に作成・確認することで、安心して外出を楽しまれる様子も見られ、さまざまな余暇のスタイルを見聞きすることができました。

すべてがうまくいったわけではなく、人の多さや時間の制限などにより、十分に楽しめない場面もありましたが、関わるスタッフがメンバーさんのことをより深く考える良い機会にもなりました。

大きな余暇だけでなく、日々の何気ない関わりの中で衣類やドレスリングを選ぶことなども含めて、メンバーさんが将来振り返ったときに「楽しかった」「よかった」と思っただけのように、これからも日々丁寧に関わっていきたいと思います。



●地域連携推進会議について

令和7年10月28日に、第1回地域連携推進会議を開催しました。会議には、利用者代表・利用者家族代表・地域関係者代表・福祉関係者・市町村担当の皆様にお集まりいただきました。

会議では、かぎぐるまが運営するグループホームの紹介を行い、メンバーさんからも説明をしていただきました。意見交換では、家賃など運営に関する内容から、地域や他事業所の現状についてもお話を伺うことができました。グループホームの様子や運営状況を知っていただく良い機会になりました。

次回は、事業所見学を含めた内容で計画しています。お集まりいただいた皆様、ありがとうございました。

▶ 地域支援部門

料理教室と 若者イベント

生活支援センター 高曲

生活支援センターでは、定期的にイベントや余暇企画を行っています。今回は、『料理教室』と『若者イベント』の2つをご紹介します！

コロナ禍により、途絶えてしまった料理教室…。令和6年1月より、形を変えて新たにスタートしました！以前は、10名ほどのメンバーが集ってみんなで料理をする形式でしたが、リニューアル後は、あくまでも「一人暮らし」を想定して、最初から完成まで自分

一人で作れるようなメニューを設定しています。定員3名で『かんたん料理教室』と題し、アットホームな雰囲気の中で集中してお料理に取り組みます。

令和7年度

第1クール(4～6月):オイスター焼きそば・中華スーフ

第2クール(7～9月):鮭ときゅうりのちらし寿司・よだれ豆腐

第3クール(10～12月):きのこの炊き込みご飯・すき煮

第4クール(1～3月):皿うどん・かきたま汁

普段、なかなか会う機会のない仲間と一緒に話せる場にもなっており、仕事や事業所での活動後のリフレッシュになっているようです！自分で作ったごはんはおいしいみたいです♪(^ ^)！

一方、若者層にむけた企画として、11月には概ね30歳以下の就労しているまたは就労を目指しているメンバーを対象に、カラオケ外出を企画しました！“友達がほしいなあ”“他の人ってどんな場所で働いているのかな？”という声があがっており、横のつながりが持てたらいいな…という願いもあって昨年度より『若者限定イベント』を始めました。ランチ会をしたり、カラオケへ行ったり…。イベントを通じて、一緒にメニューを考え、買い物を分担し、マイクを順番で回し…と、相手のことも考える機会も持てるようにしています。(SSTの視点も意識しています)

回数を重ねるごとに「次は〇〇がいいな！」「こんなこともしたい！」という声もあがるようになり、今後はよりメンバー主体の企画を行いたいと考え中です！

引き続き、みなさんの生活の充実につながるような居場所を目指して、職員一同がんばります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



居宅介護・行動援護事業

デイケアセンター 面松

デイケアセンターがざぐるまでは、余暇活動としての外出支援や通院等の介助を中心に事業を行っています。昨今では、利用者の高齢化に伴い、通院介助のニーズも高まっているところです。

新型コロナウイルスが5類に分類されて2年が経過し、外出支援の需要も増えております。これまで抑えられてきた分、様々な外出先への要望もあり、身近な買い物や散髪はもちろん、最近では、大阪・関西万博に行かれた方もおられました。その際、チケットの購入で増えてきているのがネットからのオンライン決済です。メンバーさんでもスマホを持たれている方はいますが、オンラインでの決済まで出来る方は少なくチケットの購入も一苦労することがあります。時代は、現金からキャッシュレス化している中ですが、色々な選択肢は残しつつ移行してほしいものです。

その際、チケットの購入で増えてきているのがネットからのオンライン決済です。メンバーさんでもスマホを持たれている方はいますが、オンラインでの決済まで出来る方は少なくチケットの購入も一苦労することがあります。時代は、現金からキャッシュレス化している中ですが、色々な選択肢は残しつつ移行してほしいものです。

▶ 特定技能生紹介・初任者研修報告



ミャンマー・インドネシアからの特定技能生



7月にミャンマーから1人、10月にインドネシアから3人、新たに入職されました!

●インドネシアのお国自慢はどんなところでしょう?

自然が豊かで海がきれいです。日本ではバリ島が有名ですが、サバンやロンボクという島もきれいです。コーヒーも有名です。

●ミャンマーのお国自慢はどんなところでしょう?

Bagan (バガン) です。バガンは日本の京都みたいな町で、ミャンマーの宮殿と歴史的なお寺も数えきれないほどある昔の都市です。



名前は太字の部分で呼んでください!



福祉ホーム・グループホーム

メイ ヒュタン スイン

入職: 2025.7.25

日本に来て1年以上になりました。前は高齢者の方のデイサービスにいたけど、友達の紹介でこの仕事に転職しました。前の仕事とぜんぜんちがうけど、仕事のせんぱい達もやさしくてい

ろ教えてくださったおかげでなれるようになりました。この仕事に来られてよかったですと思いました。みんなやさしくて、いい職場です。



くらふと虹班・福祉ホーム

スリ ウンタリ

入職: 2025.10.24

インドネシアのアチェから来ました。2025年9月に日本へ来ました。まだ分からないことが多いですが、少しずつ生活に慣れてきました。料理が好きで、時間があるときにドラマやアニメを見ることも好きです。日本での新経験を大切に、前向きに生活したい

です。日本語はまだ上手ではありませんが、仕事をしながら勉強しています。職場の皆さんに助けてもらい、とても感謝しています。これからもがんばります。よろしくお願ひします。



福祉ホーム

デッラ オクタリナ

入職: 2025.10.24

インドネシアから来ました。10月28日からかざぐるまで働いています。趣味はバドミントンです。私は料理が得意です。日本に行って働くことは小さいころからの私の夢でした。日本語翻訳者になりたいです。今までは皆さんとても親切でゆっくり説明して下さるので仕事も慣れてきました。よろしくお願ひいたします。



グループホーム

シェカ アンギタ

入職: 2025.10.24

アンギタです。インドネシアからまいりました。最初は日本に行った事がなくて介護の仕事に経験がありませんから分からない事と心配な事もたくさんありますが、皆さんが優しく教えてくれますからだんだん慣れていきます。今来たばかりなので間違えた事があっても頑張っています。これからどうぞよろしくお願ひいたします。



● 介護職員初任者研修

今年度もけいはんな介護講座さんのご協力をいただき、介護職員初任者研修のかざぐるま教室を開講しました。

9月から約3か月間、毎週日曜日に講座を皆さん受講されました。今回受講者のうち6名は私たちいこま福祉会に所属する外国人職員の方々です。

介護職員初任者研修の内容は、介護の内容だけでなく、制度的な座学の内容も含まれ、外国人職員の方々からすると、日本語検定よりも難しい…と頭を悩ませながら必死に勉強していました。

けいはんな介護講座さんの献身的なサポートもあって、11月末で講義は終了。最終の確認テストも全員無事合格することができ、みなさん本当に頑張りました。

今後も目標の介護福祉士取得までのステップを頑張って踏んでいってほしいと思います。

▶ 関西ミルクロードの会1円基金について

今年度、工房結で老朽化して軸が曲がってしまっている攪拌機1台と紙漉きの木枠を入れ替えるため、関西ミルクロードの会1円基金に応募し助成していただきました。

関西ミルクロードの会は、牛乳パックを集めて再利用につなげていく活動を促進されており、牛乳パックを再生して作った「おかえりティッシュ」「ただいまロール」を販売しています。私たちもこの団体の会員として牛乳パックを回収し提供する活動に参加してきました。

今回はこの助成をいただいたことによって、紙漉きのネタとなる材料を今までよりも早く作ることができるようになり、メンバーの活動にも広がりが出て、大変ありがたく思っております。

総会にお礼のご挨拶として参加させていただき、メンバーから直接紙漉きの工程や製品の紹介もさせてもらい、会員の皆様から温かい拍手をいただきました。

引き続き、牛乳パック回収、紙漉き活動に一生懸命取り組んでいきたいと思っております。



▶ 法人内研修

今年の年末法人内研修は「事例研究発表会」と題して、各部門で1年間の中で学んだり、研究してみたり、感じたことを発表する機会として実施しました。

初めての取り組みの中でどうなるかと思いましたが、日中部門は「知的障害者の高齢化と機能低下について」、居住部門は「個別のニーズに合わせた余暇企画について」、相談支援は「相談支援の業務について」とそれぞれが自分たちのテーマをしっかりと考えて取り組んだ内容を、わかりやすく表現して伝えられました。とてもいい事例研究発表会となりました。

どれもとても大事な内容で、共通していたことは本人が自らの意思で行動すること、またそれをどう引き出していくかということ(やはり意思決定支援)だと思いました。昨年末も意思決定支援について深める機会も持ちましたが、少しずつ職員の皆さんが、本人の意思を尊重してどう引き出していくかを考えてくれていることが伝わってきます。

この意識を大切に、令和8年はさらにメンバーの意思決定を深めていける、そんな1年にしたいと思います。



編集

〒630-0222 奈良県生駒市分町356-2 社会法人いこま福祉会

TEL : 0743-77-9900 FAX : 0743-77-6868

URL : <https://www.ikoma-fukushi.net/> E-mail : ikm-fukushi@kcn.jp

編集責任者 : 大谷 健太郎